



今春も、全国から多くの中高生が本市を訪れ、地域の皆さんとの温かい交流を通じて、たくさんの学びや気づきを得て帰っていきました。

震災の記憶を未来へつなぐ防災学習としての民泊は、大災害を経験したこの気仙地域だからこそ実現できる他に類を見ない貴重な取り組みです。「あの時、どのように過ごしたのか」「日々の備えで何を大切にしているのか」といった、暮らしに根差した対話こそが生徒たちの心に深く刻まれ、かけがえのない命を守るための確かな学びとなります。



★ 8月は「新規受け入れ家庭 募集月間」

8月は、本市はもちろん、住田町・大船渡市でも、一緒に生徒を迎えてくれる受け入れ家庭を募集しています。地域の温かい暮らしを、全国の中高生に届けていきませんか。事前の説明や研修会があり、当日もスタッフが丁寧にサポートしますので、初めての人でも安心してスタートできます。

受け入れは1家庭3～5名。体験指導料は1名あたり1泊3食7,200円、2泊5食13,700円です。また、県の指針に基づき運営しており、民泊中の万が一に備えた賠償責任保険（食中毒・怪我・物損など）に事務局で加入しています。

秋民泊に興味のある人は、8月31日(月)までにご連絡ください。「まずは話だけ聞いてみたい」という人も大歓迎です。

秋の修学旅行民泊 受け入れ予定

学校名	日程	人数
神奈川県立新栄高等学校	10月20日(火)～22日(木)	352人
東京都立竹早高等学校	11月4日(火)～6日(金)	274人
神奈川県立平塚江南高等学校	11月12日(木)、13日(金)	200人



このほか、利府町立利府中学校（159人）、神奈川県立神奈川総合高等学校（75人）、関東第一高等学校（135人）、仙台市立西山中学校（116人）、日本大学第三高等学校（85人）も来訪します。

秋は計8校・1,396人の受け入れ予定です。

★ 気仙地域がひとつに。「気仙民泊」が始まります。

本年5月、大船渡市・住田町・本市の3市町が連携し、気仙地域全体で修学旅行を受け入れる「気仙民泊」がスタートしました。10月からはこの体制で本格的な受け入れが始まります。

現在、主に都市圏の中高生が東北方面へ教育旅行に訪れています。これらのうち「気仙に行きたい」という学校を3市町の家庭で受け入れます。300人以上を一度に受け入れられる広域的な体制は、全国的にも非常に珍しい取り組みです。

★ 受け入れ家庭の声（気仙町在住・^{おいかわ かよ}及川佳代さん）

「民泊しませんか」とお誘いを受け、興味と好奇心、少しの社会貢献の気持ちで始めました。家族でも友人でもない中高生たちと過ごすうちに、不思議と親しみが湧いてくるんです。震災を知らない子どもたちと接すると、「伝えたいことがある」という想いが湧いてきて、これからも続けていきたいと思います。



問い合わせ・申し込み先

認定特定非営利活動法人 SET 民泊事務局 ^{よしはら}吉原 ☎ 0192(47)5747 平日午前10時～午後5時

メール：takataminpaku@nposet.com

友だち追加後、お名前と「民泊について」とメッセージを送ってください。スタッフが返信します。



岩手県男女共同参画出前講座

「多様な性・LGBTQ+について」を開催しました



7月11日(土)、いわて男女共同参画サポーターの武蔵野美和さんを講師に迎え、職場や地域などの様々なコミュニティにおける、LGBTQ+の人が抱える生きづらさや身近なアンコンシャスバイアス（無意識の偏見・思い込み）について学びました。市民12人が参加し、互いに認め合い、支え合う社会に向けて自分ができることを考える貴重な機会となりました。

本市では男女共同参画の基本理念として、「人権の尊重」「社会における制度または慣行についての配慮」「政策等の立案及び方針決定過程への共同参画」「家庭生活の活動と他の活動との両立」「国際的協調」「生涯にわたる健康な生活」「あらゆる暴力的行為の根絶」を掲げ、誰もが自分らしく活躍することができる社会を目指しています。



問い合わせ先 市役所まちづくり推進課コミュニティ係（内線125）

教えて

SDGs

Sustainable Development Goals

その先の笑顔のため、いまできること

★SDGsとは…

自分の子どもや孫たちが暮らす未来に、住み続けられる世界を残すため、掲げられた全世界の人が取り組むべき17の目標。

あなたもぜひSDGsに取り組んでみませんか？

本市は、令和元年（2019年）7月に「SDGs未来都市」に県内で初めて選定されました。本コーナーでは、本市でSDGsの達成に向け積極的に取り組んでいる人・団体、関連イベントなどを紹介しています。

ブルーフラッグについて理解を深める環境教育講座を開催

7月10日(金)、高田第一中学校の3年生を対象に環境教育プログラムが開催されました。本プログラムは、国際環境認証「ブルーフラッグ」への理解を深め、地元の海の魅力を再発見してもらうために市が企画。本市の高田松原海水浴場は、水質や安全性、環境教育、施設の管理体制といった国際基準を満たし、本認証を3年連続で取得しています。

当日は、日本ブルーフラッグ協会の^{かたやまきよひろ}片山清宏代表理事を講師に迎え、ブルーフラッグ制度の説明や身近な海を守ることがいかに私たちの未来に繋がっているかについて講話が行われました。

その後、生徒たちは高田松原海水浴場で砂浜に落ちているごみを拾い集めるビーチクリーンと砂の中に混じっている小さなプラスチック片を探し出す「マイクロプラスチック採取体験」を実施。生徒たちは、楽しみながらも熱心に作業に取り組んでいました。

本プログラムに参加した^{おじまなな}小島音々さんは、「ブルーフラッグ制度について学び、地元の海を守る大切さや魅力を改めて実感できた。海岸のゴミを拾うことなど、小さな事の積み重ねを大切にしていきたい」と感想を述べました。

本市のブルーフラッグに関する取り組みはこちら



国際環境認証ブルーフラッグの詳細はこちら



講師から説明を受ける生徒たち



ビーチクリーンに取り組む生徒たち



マイクロプラスチック採取体験の様子